

## 令和2年度第2回宇陀市学校規模適正化検討委員会 記録

令和3年1月22日（金） 14:00～16:00

宇陀市役所大会議室

出席者

【宇陀市学校規模適正化検討委員】赤沢委員長、東畠副委員長、太田委員、中島委員、泉尾委員、丸谷委員、中野委員、山中委員、栗谷委員、増井委員

【事務局】福田教育長、中西局長、薄木次長、古谷次長、萩岡課長、太田主幹、垣内主幹

福田	令和2年度第2回宇陀市学校規模適正化検討委員会の開催に当たり、御多用中にも関わらず出席いただきお礼申し上げます。前回、7月の第3回委員会で検討した中間報告を8月と10月の2回、地域の方々との懇談会という形で報告をさせていただいた。また、PTAへの出前講座という形で、申し出があればそちらへ行って状況を説明させていただくこともホームページで周知させていただき、現状を認識してもらうことに努めた。そのようなことも踏まえ、将来を見据えた適正規模及び適正配置の在り方について答申いただきたいと考えているので、どうぞよろしく願い申し上げます。この後、仮称であるが宇陀市学校適正化基本計画の策定へとステップアップして進めることができると考えている。本会の趣旨をご理解いただき、お力を貸していただくようお願いして挨拶に代える。
垣内	<b>資料1</b> 及び <b>資料2</b> の9ページを基に、中間報告会の概要について説明
赤沢	<b>資料1</b> で中間報告会の記録とそれを <b>資料2</b> の答申案の9ページに落とし込んだという二点について報告をいただいた。議題(2)と重なるところもあるので、この中間報告会に関する質問があれば、答申案を検討する中でお知らせ願う。ひとまず、本日のメインとなる宇陀市学校規模適正化検討委員会の答申案について、事務局より願います。
垣内	<b>資料2</b> の1ページを基に、「1 はじめに」の概要を説明
赤沢	1ページの「はじめに」について報告いただいた。当諮問がなされた背景の部分と、本委員会としてどういうプロセスで審議を重ねてきたかということについて事実レベルで書いているとのこと。この議論も1年以上重ねており、何を諮問されたのか確認すると、 <b>資料2</b> の16ページの諮問書にある二つで、宇陀市立小・中学校の規模の適正化に関する基本的な考え方ともう一つが、配置の適正化に関する基本的な考え方である。一つ目が学校の規模なので、1学年当たりの児童生徒数はどれくらいを適正とするか、1学級当たりの児童生徒数はどれくらいを適正とするかということに関わる基本的な考え方をここで答申するということである。もう一つが配置なので、市内の学校をどこにどのように配置することが適正かということの基本方針を回答するという趣旨であった。どこまで答えるのか案外見落としがちになるので、もう一度確認させていただいた。質問等がなければ、ひとまず前に進ませていただいて、引き続き2について願います。
垣内	<b>資料2</b> の2～5ページを基に、「2 宇陀市立小・中学校の統廃合の歴史と子ども現状について」の概要を説明
赤沢	中間報告と大きな内容の変更はないが、グラフの範囲等について少し修正したという説明であったかと思う。このことについて、ご意見ご質問をお願いする。
栗谷	5ページの問題行動等の現状というところで、前回の場でも話をさせてもらったが、不登校の数、特に中学校で平成25年度は22人。27、28年度は一ケタで、最近また増えてきている中で、本年度はコロナによる長期の臨時休業もあり、その影響が出ていないかということを出題として出させてもらったように思うが。

垣内	問題行動調査については全国平均との比較で示しているが、本年度の調査結果は約1年後の公表となることから令和2年度の数字は入れていない。今、正確な数字は持っていないが、学校からの報告を見る限り、コロナによる大きな変化は見られない。市全体の傾向としてはコロナ以前から微増傾向にある状況である。
中野	いじめの内容を補足してくださいという話であったと記憶しているが。
垣内	この調査内容については、「嫌なことを言われたことがある」というようなこともいじめの数として上がっている。この数は1,000人当たりの数なので、嫌なことを言われたことがあると思う子供が10人に1人程度いても不自然ではないと思う。この数については、国も逆にそういうことがない方が問題であって、学校で嫌な思いをしている子供を積極的に認知し、解決を図っていくことを求めている。特にこの数が多いからといって、宇陀市に問題があるとは捉えていない。全国の調査結果を見ると、県同士の比較で1,000人当たりの認知件数に10倍近くの差が見られることもあることから、数だけが独り歩きしないように、市としてもできるだけ細かいところまで見付けて、そのあとのケアを図ることに注力したいと考えている。また、学力、体力、問題行動等の概要ということでこの程度の記述に収めているが、このいじめのように詳細な説明を入れないと誤解を招く恐れもある。いじめ問題については、宇陀市では、いじめ防止推進協議会等の別の組織で取り組んでいることもあり、この学校規模適正委員会の答申の中でどこまで載せていくのが適切かという辺りについてもご意見いただきたい。
山中	この表は宇陀市全体の数字となっており、体力など他の調査についても各学校に配慮されていることだとは思いますが、いじめの数字がこういう形で出されると、これが学級の問題なのか、別の問題なのか、適正規模を考えるに当たり、その辺りを解説する必要があると思うが、この件についてどう捉えているのか。
垣内	いじめ問題については学校教育で大切な部分であり、市民の関心も高いので、解説を加えないとやはり不安を与える。いじめ防止推進協議会の中で、この調査結果を分析し、改善を図らなければならないと考えているが、数字が独り歩きしないようにこの項目について詳細な解説を加えると、今回の学校規模適正化に係る答申の中で、この部分のボリュームが膨らんでしまう。したがって、当初の答申案では削ったが、委員長より中間報告で入れていたものを委員会の了承を得ず削るのはいかがなものかのご指導いただき、このような形でまとめさせていただいた。
赤沢	先ほどの質問に関わって、学校による偏りは把握しているのか。やはり大きな学校の発生件数は多いだろうが、学校の規模と発生割合との相関はどうか。
垣内	今、手元に正確な数字は持ち合わせていないが、各学校の発生状況は把握している。
山中	公表しづらい部分はあると思うが、例えば、6ページの望ましい児童生徒数が学校によって異なるのは、いじめに関わって先生が目が行き届くようにして欲しいということで、こういう数字になっているのかと気になるのだが。
垣内	6ページの左のグラフは各学校の保護者が考える望ましい児童生徒数、右のグラフがその理由を示しているが、いじめとの関連については今回の調査では分からない。ただ、この学校ごとのグラフを見て分かるのは、各学校の保護者は、現在の学校の規模に概ね満足されており、小さな学校は少人数が、大きな学校は多人数が適切であると考えられる保護者の割合が多いことが、学校同士の比較で分かった。
赤沢	今の意見を踏まえると、5ページの問題行動等の現状の部分は、少し情報を補足することが必要だと思う。今の説明を聞くと、平成29年度からいじめの認知件数が急増しているが、むしろ宇陀市は適切にというか、より透明性高く報告が挙がっていると受け止められ、必ずしも平成29年度から急に学校が荒れたとは言え

	<p>ないことが分かるわけだが、この数字だけを見たときに、独り歩きするという懸念があるので、この件に関わっては本文のどこかで補足することが一つ。もう一つが、市としてもこの件について何の問題はないとは考えていないと思うので、別の委員会で検討して対策を講じているということ本文に書いていただく形で。もちろんこの学校規模適正化の検討の際の基礎資料としているわけだが、規模と配置によって全ての不登校やいじめ問題が解消するとも言いきれないので、この答申の中では、このような形で子供の現状確認を行い、その後に規模及び配置を検討したというように補足してはどうか。ただ、コロナで不登校が急増しているわけではないが、増加傾向であるということについては、非常に注視しなければならないと思うので、この答申案の10ページの4の望ましい教育や学校の姿という中で、これらの事案についても触れる形で整理してはどうか。結論として申し上げると、5ページのウのところでは、平成29年のいじめの認知件数の急増の原因と、市が設置した別の委員会で検討を進めているということ、少し解説するという形で対応できればと思うがいかがなものか。</p>
増井	<p>重複するかもしれないが、29年からいじめが急増したということ情報を提供、補足するというよりは、いじめや暴力行為や不登校が、学級や学校の規模とどう関係しているのかということについて、この委員会が議論して確認する場なのかは定かではないが、そのような問題が学校の規模や配置とどう関係があるのか、本当に関係するのか、関係しないのであれば、あえてこの答申の中に入れる必要がないかもしれない。でなければ、おっしゃったように宇陀市が全国に比べていじめが多い、不登校が多いという不安をあおるだけになってしまう。なので、その検証というのがむしろ大事になってくるのではないか。この答申の中でこの情報を載せるということであれば、なおさらその相関関係について検証したという裏付けが必要ではないか。</p>
赤沢	<p>そこはいかがなものか。今、手持ちの資料等と言えることはあるか。</p>
垣内	<p>本年度の資料を見ると、いじめとして報告されているものの内訳として「冷やかされたり、からかわれたり、脅されたり、悪口やいやなこと言われたりする」、「仲間はずれにされたり、集団で無視されたりする」、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」などが挙げられている。この中で一番回答の多いのが「冷やかされたり、からかわれたり、脅されたり、悪口やいやなこと言われたりする」であるが、全校児童生徒数がおおよそ200人中22人の学校もあれば、300人中55人、100人中20人という学校もあり、学校規模といじめの相関は分かりづらく、経年データ等も分析しないと何とも言えないところがある。本答申では、子供の現状について説明しているので、学校規模といじめの認知件数との相関といったところまでは分析していない。また、先ほども申したように、市ではいじめ防止推進協議会というのを毎年定期的に開催しており、先の2月8日にも開催する予定がある。その中で具体的に宇陀市の学校の現状を共有し、早期発見、早期解決に向けた取組をする。</p>
山中	<p>今回の答申を出すタイミングといじめ防止推進協議会が出す報告書では、どちらのタイミング早いのか。もし、いじめの方が早ければ、本答申では要点だけを示してもいいような気がする。</p>
垣内	<p>いじめ防止推進協議会では、報告書としてまとめているものはなく、現状を共有してその課題について、今後、迅速に対応できるように協議をしている。今、お伝えした数字については、その協議会の中で、国や県と比較して市はどこに課題があり、何を改善しなければいけないのかという部分を先生方と議論し共有している。生の数字が出てしまうと、やはり認知件数だけが独り歩きすることが危惧されるので公には出さず、先生方の中で共有し、改善を図っていただいている。</p>

中野	この項目は出さないといけないのか。
垣内	当初案では省いていたが、中間報告で入れていたので、急に無くすのはいかがなものかということで、もう一度入れさせていただいた。子供の現状という部分で中間報告させていただいたが、最終答申は注目度が高いのに、論点が違うところに行ってしまうことを危惧したので、適正化検討委員会として載せるべきかどうかというところを悩んだところなので皆さんで議論いただければと思う。
山中	適正化の一つの要因でもあるので、委員長が言われたように解説を丁寧にして、やはり載せないわけにはいかないと思う。
赤沢	方向性は二つで、「ウ 問題行動等の現状」を残した上で、誤解のないように情報を補足するか、もしくは、学校規模といじめ等について、精査はしていないが相關までは分からないという部分があり、つまり、この適正化委員会との議論とは必ずしもぴったり対応してないということでこの部分は割愛して、いじめや不登校等の問題行動等については、本文のどこかに残すという形にするかどうかだと思ふ。一旦、この部分は棚上げにして3と4を引き続き検討していただき、再度、どうするかということを検討していただこうと思う。
垣内	<b>資料2</b> の6～9ページを基に、「3 保護者や教職員が望む学校の適正な規模及び配置について」の概要を説明。  報告いただいた内容でポイントになるのは、中間報告から分析を進めていただき、保護者の理想とする規模とそう考えた理由について比較していただいたところかと思う。6、7ページのそれぞれ右のグラフである。結果として言えることは、多人数の子供で学ぶことのメリットがあり、少人数で学ぶことにもメリットがあるというところで、何をメリットと考えるかによって望ましい規模の考え方が明確に分かれている。ですから、多人数だからいいとか少人数だからいいとか、そういうふうには一概に言えずに、やはり何を大事にするかによってかなり多様な意見があるということが、アンケート結果から確認できる。併せて(2)で、これは議題1で確認いただいたとおり、中間報告会に来ていただいた市民の方の意見を整理していただいたというところ。この点についてご質問、ご意見はどうか。 ないようなので、次に進めさせていただき、ここからが慎重審議という話あった4のところを少し丁寧に見てもらいたいと思う。では、事務局より説明をお願いします。
垣内	<b>資料2</b> の10～12ページを基に、「4 これからの時代に適応した望ましい宇陀市立小・中学校の姿について」の概要を説明。
赤沢	通常こういう適正化に関する委員会等では、児童生徒が減るので学校の統廃合はやむを得ないというような結論が出るのが一般的かと思うが、今回は、様々な議論や中間報告会での声なども反映して、残す場合はただ漫然と残すのではなく、どういうふうにもそのメリットを発揮していくかということも含めて、宇陀市立小・中学校の今後の方向性として、統廃合を進める部分と、前向きに小さな学校を残すという部分を並べて書いていただいているというつくりになっている。この4に関わってご質問、ご意見をお願いします。
増井	先ほどコロナの影響について少し話があったが、コロナがこのままどう続くかは誰も分からないが、コロナの影響の有無に関わらず、インターネットやITを使った授業はもう時代の流れとして確実に増えてくるので、そのことを踏まえれば、(1)の望ましい学級規模について、このアンケートをベースとするのは、実際に学校に行く保護者や先生方の意見なので大切なのは分かるが、これまで適切と思っていた規模というのが、多分これからは変わる可能性は大いにあると思う。かつ、そのコロナの影響で在宅学習などの遠隔教育も絶対増えていくと思うので、そのことを踏まえて学校規模を考えることも非常に重要な気がする。つまり、情

	<p>報テクノロジーを最大限利用するということと、やはり地域に根差した宇陀独自の取組ということが、これからの教育において非常に大事になってくるので、その二つをいかにうまく組み合わせていくかということもあっていいと思う。</p>
赤沢	<p>このアンケートは確かにコロナ禍前の、これまでの学校の常識で書かれているところがあるので、3密の問題なども含め、このコロナで学校規模というものをもう一度捉え直し、今後の状況も踏まえ、この検討委員会として何を残すかということも必要かと思う。学校・園の代表として出席されている委員にも、コロナ対応をされている状況で、学校のこれまで適正とされてきた規模と、今後も様々な感染症対策等を継続的に講じていくということを考えたときに、今どういう状況なのか、どうあればいいのかというようなことをご意見いただければと思う。</p>
泉尾	<p>中学校は40人学級だが、その後、文科省の話では、コロナによる3密を避けるためには20人程度がいいのではないかとということであった。本校は、現在、1学年40人に満たないが、先ほどあったように加配をいただき、1年生は20人と19人、2年生は17人と17人、3年生は17人と17人の学級である。コロナは何年か経てば、特効薬等が開発されてなくなるかもしれないが、本校の現状で言うと20人以下の学級規模も授業を進めていく上では有効ではないかと思う。またGIGAスクール構想も、最初は全員に導入されるまで3年とあったが、コロナの影響で先取りで本年度配布していただいている。リモート授業も、おそらく一番はコロナ対策という形で考えられたと思うが、やはり、人の気配を感じて対面による授業は大事だと感じている。</p>
中島	<p>本校は市内6小学校の中では一番児童数が多く、現在290名ほどいる。10ページの表では2年生が36人とあるが、ここに8名の特別支援学級に在籍する児童を合わせると44名になり、交流学級で共に過ごす、教室がパンパンで密が避けられない。今は少人数加配で2学級となっているが、令和3年度の2年生から順に学級定数が35人になっても、この学年の定数は40人のままなので、少人数加配で対応するしかないと考えている。一番の問題は5年生で、ここでは38名とあるが、現在は37名に特別支援学級在籍児童が4名いるので計41名が交流学級として一つの教室で過ごす時間も多し。ソーシャル・ディスタンスを確保するために、教室の机をジグザグに並べても児童の頭と頭の間隔が1mぎりぎりなので、交流学級で過ごす、密な状態。ただ、隣に空き教室があるので、分散してできる授業については分散することも可能だが、教員数の問題などがあり、現在は担任と特別支援学級担任のみでやっている。やはり高学年になると、40人では教室がかなり密になるというのは一目瞭然で、その辺りも加配等で検討していかなければならないと常に考えている。</p>
太田	<p>幼稚園も今はコロナ対策で、行事等は密集を避け、集会的なものはほぼなく、学年やクラスごとで行っている。本園は年少が13人、年中が16人、年長が18人で全部でも47名なので、比較的行事等も学年を分けてやりやすい。しかし、教育においては異年齢との交流はとても大事なことでと考えているので、その部分はビデオを使ったり手紙使ったりと、小学校との交流もそういうものを入れながらしているところ。今は命が最優先だが、教育の人間関係の部分で、やはり長く続いて欲しくないというのは、親や私たちの願いである。幼稚園の場合は1学級35名という枠はあるが、3～5歳ではそれぞれ発達の段階が違うので、3歳くらいなら15名程度、4歳なら25名程度がやりやすく、5歳なら集団の中で活発な意見交換やグループ活動をするので35名がいいというように、年齢に応じて活動がより豊かになる規模というのは実際の現場にはある。</p>
赤沢	<p>新型コロナウイルスの感染症対策の見通しがもてない中で、ちょうどそのタイミングで学校の規模、配置ということなので、この検討委員会の答申で、どういう形でその部分について触れていくかというのは難しい部分もあると考えるが、</p>

	<p>ただ、そのことが一言も触れられていないのも、かえって不自然とも思うので、先ほど増井委員がその辺りをご指摘いただき、学校の先生方にはその状況を教えていただいた。小規模校は人数が少ないので、結果的に感染症対策は大規模校に比べるとやりやすいかもしれないが、(1)は一定の規模を維持するという視点で書かれているので、少し何か方法がないかという意見をもった。</p>
増井	<p>私が言いたかったのは、コロナはこの先どうなるか分からないので、あまりコロナ対策について議論しても意味がなく、コロナ対策によりリモートでもいろんな教育ができるという可能性の広がり認識され、その流れはコロナが収束してもおそらく続くということである。私は、その時に少人数であっても瞬時に世界と繋がる、世界の誰とでも英語でリアルな教育ができる環境になるし、そういう意味で、学校教育の在り方とコロナで浮き彫りになったリモートの可能性が、今後、教育における適正な規模に何らかの影響を与えるのではないかと思った。</p>
赤沢	<p>今のようなご意見であれば、文面は精査しなければならないが、学校規模についてのこのアンケートは、コロナ禍以前を前提としているものであり、今後もその状況を踏まえ慎重に検討を継続していく必要がある。本当にこの規模が適正かということは、この検討委員会が閉じたからといって議論を終えるわけではないと思うので、引き続き検討を続けるというようなことを少し書き加えていただきつつ、それによって開かれた遠隔教育等の可能性という点は、(2)の小規模校のところでは書かれているが、(1)では触れられていないので、(1)でも遠隔教育等でより多様な人と繋がるような機会も検討していくということを書き加えるのはどうか。</p>
東畠	<p>この4の見出しが「これからの時代に適応した望ましい宇陀市立小・中学校の姿について」とすごく大きく捉えているにもかかわらず、その内容が学校規模の維持なのか、地域に根差した学校を維持なのかといった小さな点でしか述べていないのは残念な気がする。今の意見を伺いながら、この(1)(2)は残しつつ、これからの時代に適応した教育というのが、例えば、教育のICT化や地域に根差すということ言えば社会に開かれた教育課程など新学習指導要領が目指す幾つかのキーワードがあるので、学校規模とは切り離れた形で、これからの時代に求められる教育について宇陀市はこう考えていますということを書き、それらを踏まえて今後検討していくとした方がいいと思った。</p>
垣内	<p>例えば、教育のICT化に関わって、今後GIGAが整備されると、教育内容を充実させるための手立てとして活用することはもちろんであるが、今回の答申内容が学校の適正な規模や配置というところで、ICTの活用については小規模校のデメリットを解消するための手立てとして述べており、教育内容の充実ではあるものの、そこを広げすぎると学校規模、配置の適正化の話から焦点がずれることを心配している。</p>
東畠	<p>そんなに大げさに書く必要はなく、要するにそこに目配りしていますということが分かればいいのではという意見である。そこを突っ込んで書く必要はなく、「これからの時代に適応した望ましい…」というふうに4の最初で言うわけなので、こういうことも考えつつやっていきます程度でと私は思っている。</p>
垣内	<p>見出しを結構大きなスケールで書いてしまったので、この適正化の答申として、「これまでの経緯を踏まえた宇陀市の望ましい学校の規模について」などの絞った表現にしたらよいか。見出しの内容が大きいため本文の内容と合わないということになると思った。答申としてどちらが望ましいのか。やはり大きな夢を描けるような書き方をした方がいいのか、規模や配置に関する諮問事項に対しての考え方として絞った方がいいのかというところでご意見いただけたら。</p>

<p>栗谷</p>	<p>私も教職を離れて7年経つので現場も変わっていると思うが、特に今年のコロナで小学1年生の学力はどうなのかという不安がある。経験から言うと、小学1年生は落ち着くのに半年くらいかかり、夏休みが終わってやっと小学生になる感じ。中学生も一緒に、小学6年生では最上級生として学校の中心としてやってきたのに、中学に入ったら1から始めて夏休みが終わる頃にやっと中学生になってきたという実感があるので、多分、今年は現場の先生方は苦労いただいているのでは。で、他の市町村でも学校の統廃合が進む話を聞くが、今のコロナの状況で、宇陀市としてはとりあえずこの1年の遅れた部分をきちんと身に付けるなどもう一度元に戻って考え直してはどうか。先ほどの複式の話も、期限を切って義務教育学校にするという話ではなく、その問題が出てくる頃にもう一度検討するなど、現状でできることを考えたと思う。リモートの話もあったが、教師の立場では、「分からなかったら先生に聞きなさい」という話だが、何を聞いていいかわからない子供には聞くことなんかできない。そういう子供にリモートで一方向的に流されたら、余計に分からなくなってしまうので、その辺りも踏まえて基本的な学校の在り方を考えてもらったら。世界的な流れの中で、リモートと一人1台のパソコンを宇陀市も進めておられるようだが、基本的なことが身に付いていない中ですべてリモートとなったら大変と思うので、今一度、立ち止まるという決断も必要という気がする。</p>
<p>赤沢</p>	<p>特に、(3) でかなり具体的にリミットを想定して書いてあるので、この辺りのところをどのような書きぶりとして落とすかということも関係してくると思う。</p>
<p>山中</p>	<p>一通りお聞きして、例えば、9ページの【グラフ12】の保護者や先生方の考えのように大きな理由のところ対策を講じることが一つの方向性だと思うが、10ページの各校の児童生徒数や12ページの入学予定者数だけ見ると、榛原西小学校と室生小学校以外はクラス分けの工夫はできそうだが、やはり、人数の少ないこの2校は人口の変動はあるとはいえ、基本的には減る方向なので、その時に、例えば、バス通学で30分を前提としても問題ないのかということやこの学校の保護者自身が将来をどう考えているかが気になる。他の4小学校と問題意識が随分変わるような気がするので、そういう意味でもう少しこの2校の保護者の意見を重点的に聞いたほうがいいような気がする。もう一点は、宇陀市という一つの市制になった中で学校の統廃合等を考えたときに、この従来の大宇陀、菟田野、榛原、室生という分け方を保護者がどこまでこだわるのか。地理的に他の地区の方が近い児童生徒もいるようなので、そういう意味で、既存のこういう町の分類をどの段階で解消できるのかという気も若干している。</p>
<p>赤沢</p>	<p>今後、この基本的な方針を答申として戻して以降、個別の学校の意向や地域や保護者の意見等を聞き取っていただく必要はあると思うので、今の意見はまさしくその通りかと思う。この適正化検討委員会の中で、個別の学校を具体的にこうすべきというのは踏み込み過ぎだと思うが、それほどゆっくり腰を据えて何十年も検討していくという話ではないと思うので、具体的に着手されるのだと思うが、そここのところで丁寧にやりとりしていただく必要があると思う。</p>
<p>山中</p>	<p>コロナの収束云々の話があるが、今後、コロナがどうなっても感染症という類のものが人間の脅威になる社会を前提に、企業はそれに対応した仕組みに変えつつあり、当然、それに伴い社員や家族の生活様式も変わりつつあるので、認識としてはコロナが済んだら元に戻るというのは、考えとして甘い気はする。</p>
<p>赤沢</p>	<p>委員会の終了時間も迫っているが、PTAの代表として来てくださっている方からのご意見もいただけたら。</p>
<p>丸谷</p>	<p>初めて参加して難しいなと思い、何から話せばいいかわからないが、私は20～30人くらいがいいと思っているが、他の方はまた違う意見だろうし、その保護者</p>

	<p>の意見のすり合わせがすごく難しいと思う。個人的には先ほどあったように1、2年生は体調も崩しやすいし、先生方によく見てもらえるよう手厚くして欲しいと思う。その辺のことも考えていただき、保護者と先生方の意見と踏まえて、いい方向に持って行ってもらえたらと思う。</p>
赤沢	<p>まだ、かなりのご意見をいただき、答申にどう示すか確定できないが、1点だけ、先ほどの5ページのウで、重要事項だとは理解しつつ、この6ページ以降の議論の流れとはやはり直接関連していないかと思うので、かえって不安をあおったり、こういう問題行動を解決するために適正化の話をするのかというミスリードしたりする恐れもあるので、答申から省かせていただいてよいか。実はこれ復活させてくださいって言ったのは私だが、中間報告にあったものが最終報告で消えてしまっていると、何でなくなったという話を色んな場でしなければならないと考えた。その時に対応されるのは教育委員会だと思うが、この議事録でこういう議論の結果、最終の答申から外したという記録を残しておけば、正確に回答いただけたらと思ったので、最終的にはこの答申から省かせていただく。それ以外では様々な意見をできる限り反映して、事務局と私、副委員長で最終案を作成させていただき、電子メールや郵送といった形で皆さんに審議していただくという形にさせていただきたいと思うが、そういう形でよろしいか。(異議なし)</p> <p>では、議題の(3)今後の予定について事務局よりお願いします。</p>
垣内	<p>各委員がおっしゃるように、今後、色んな事がどんどん変わっていく中で、学校の在り方も変わっていくと思う。その中でその時々状況に応じて考えていかなければいけないと思うが、それは、市だけで対応できるものではなく、教員については国や県が配置するので、市が適正と考える規模と国のそれにずれが生じれば、そのずれの分は市の予算をもって配当しなければいけなくなる。限られた予算の中で、それがやはり宇陀市にとって必要なものとして市民の理解をいただかなければならないことも踏まえて議論する必要がある。また、国の考え方として、コロナ禍において小学校の1学級当たりの規模は、これまでどおりではまずいということが変わることになったが、複式の規模は変わらない。そんな中、保護者が何の情報もなく、突然、複式学級と言われて、それなら転居するなどにならないように、きちんと情報提供して、子供のことを一番に考えて何がいいのかという視点で、これから丁寧に説明していかなければならないと思っている。そこでこれまでの議論を踏まえ13ページに答申として示した。こちらについても、時間が押しているがいかがなものか。</p>
赤沢	<p>そこも含めて先ほどの、この基本的な考え方についてという文面と合わせて、最終的に、それぞれの委員に文書で了承いただくという形ではどうか。(異議なし)</p>
垣内	<p>それでは今後の予定について説明する。今日の貴重なご意見を踏まえ、先ほどの話にあったように、事務局、委員長、副委員長で修正をさせていただき、皆様に書面にてご意見いただく。それを踏まえて再修正したものを委員長及び副委員長に決裁をいただくということによろしいか。決裁いただいたものは3月議会に報告し、市のWebページ等にも公開し周知を図って参りたい。本答申を踏まえ、来年度以降、適正化に向けた準備委員会を設置し、市民の意見もありましたように具体案として様々な選択肢を示しながら、今後の宇陀市立小・中学校のことに考えて参りたい。</p>
赤沢	<p>今の件についてご質問、ご確認等いかがか。</p> <p>それではその他ついて委員の皆さん、事務局から何かないようであれば議事は終了する。非常に活発にご議論いただき、まだ案をとることはできなかったが、継続して良い答申にして参りたいと思うので、もう少しご協力願う。</p>



垣内	<p>昨年からコロナの影響で本委員会を予定通り進めることができなかったが、お陰をもって何とか次の一步を踏み出すことができるのかと思う。委員の皆様には2年間という長きに渡り、何かとご支援ご協力いただき、本当に感謝申し上げます。お礼を申し上げるとともに今後とも宇陀の子供に最適な教育環境を残していくために、相変わらぬご支援ご協力をよろしく願います。</p> <p>では、これをもって宇陀市学校規模適正化検討委員会を終了させていただく。</p>
----	---